

千厩病院の現状

岩手県立千厩病院

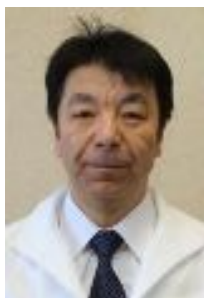
下沖 収

岩手県立千厩病院の概要

- 旧東磐井地域 **50,000人**の地域病院
- 稼働病床数 **148床**+感染症4床
 - 一般(10:1) 86床+回復期リハ 35床+地域包括ケア病床27床
- 外来患者数 **250人/日**
- 救急車 約 **1,000台/年**
- 血液透析 **20床** 約70名
- 協力型臨床研修病院



常勤医師



総合診療外科
(病院長)
下沖 収



理事(名誉院長)
鮎名 勉



総合診療外科
(副院長)
小原 眞



消化器内科(副院長)
蒔 寿樹



総合診療内科
寺浦 寛之

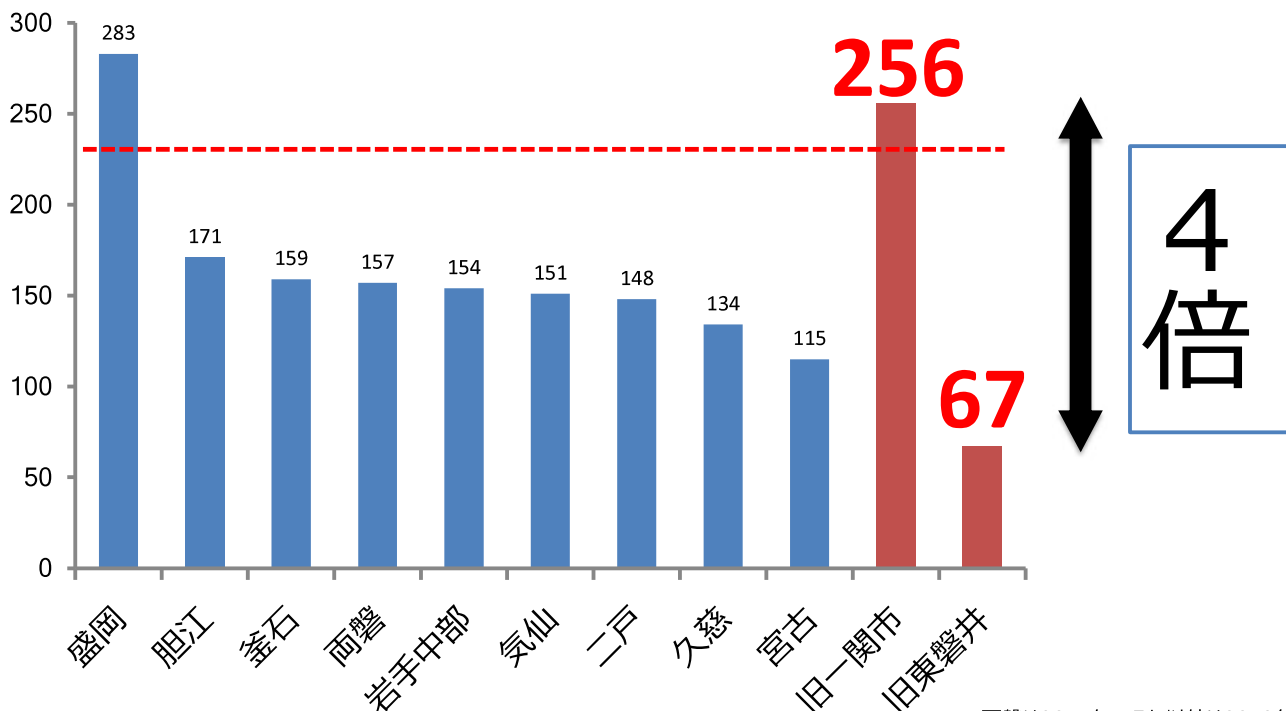


総合診療外科
佐々木教之

5名
+1名(週3日)

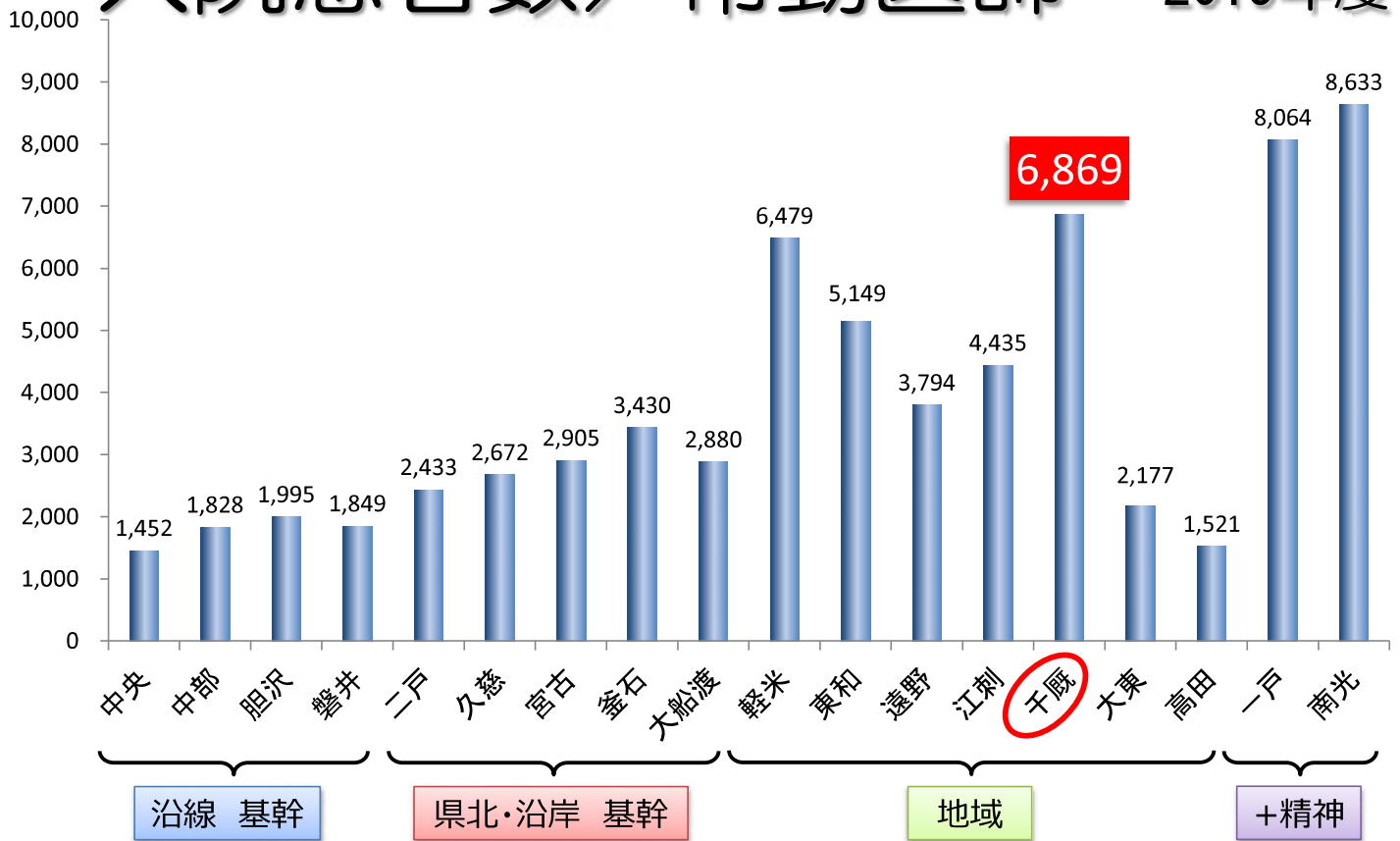
医師数地域格差

人/人口10万人



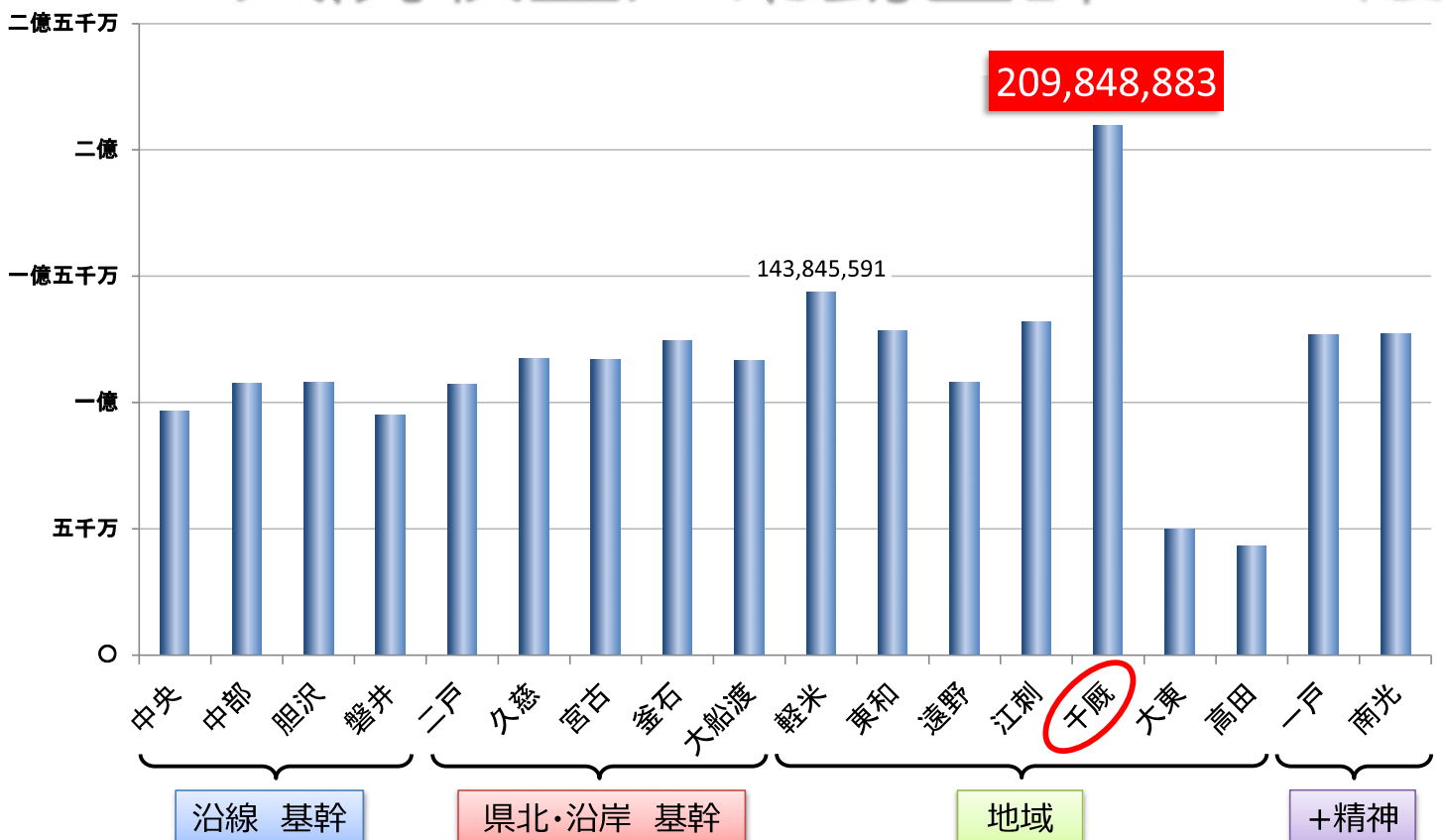
入院患者数／常勤医師

2015年度



入院収益／常勤医師

2015年度

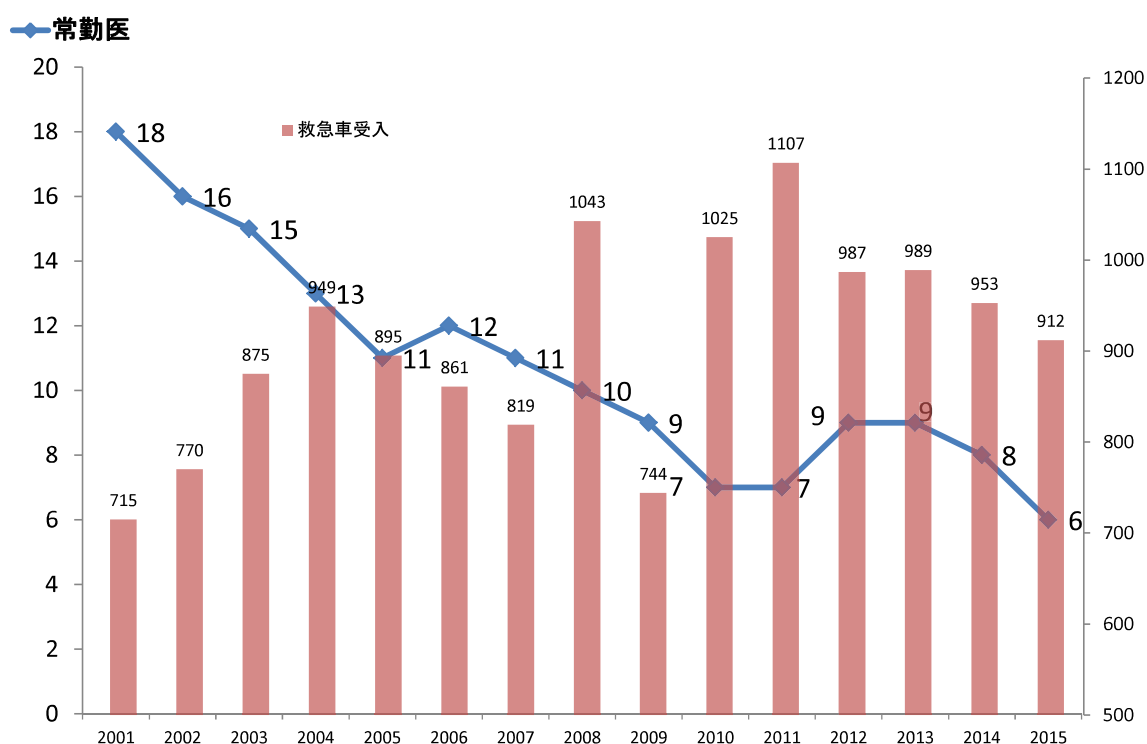


岩手県立病院の中では
紛れもない

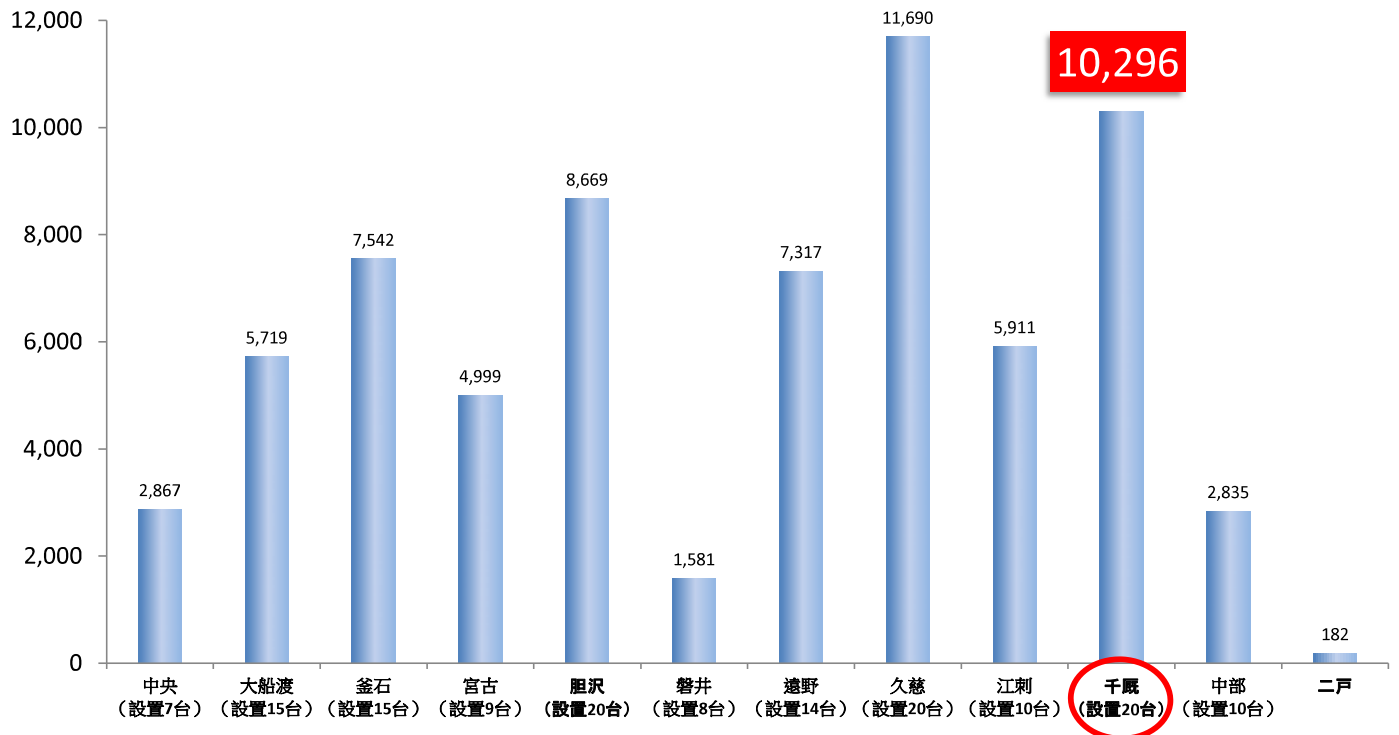
医師不足 NO. 1 病院



常勤医数と救急車数

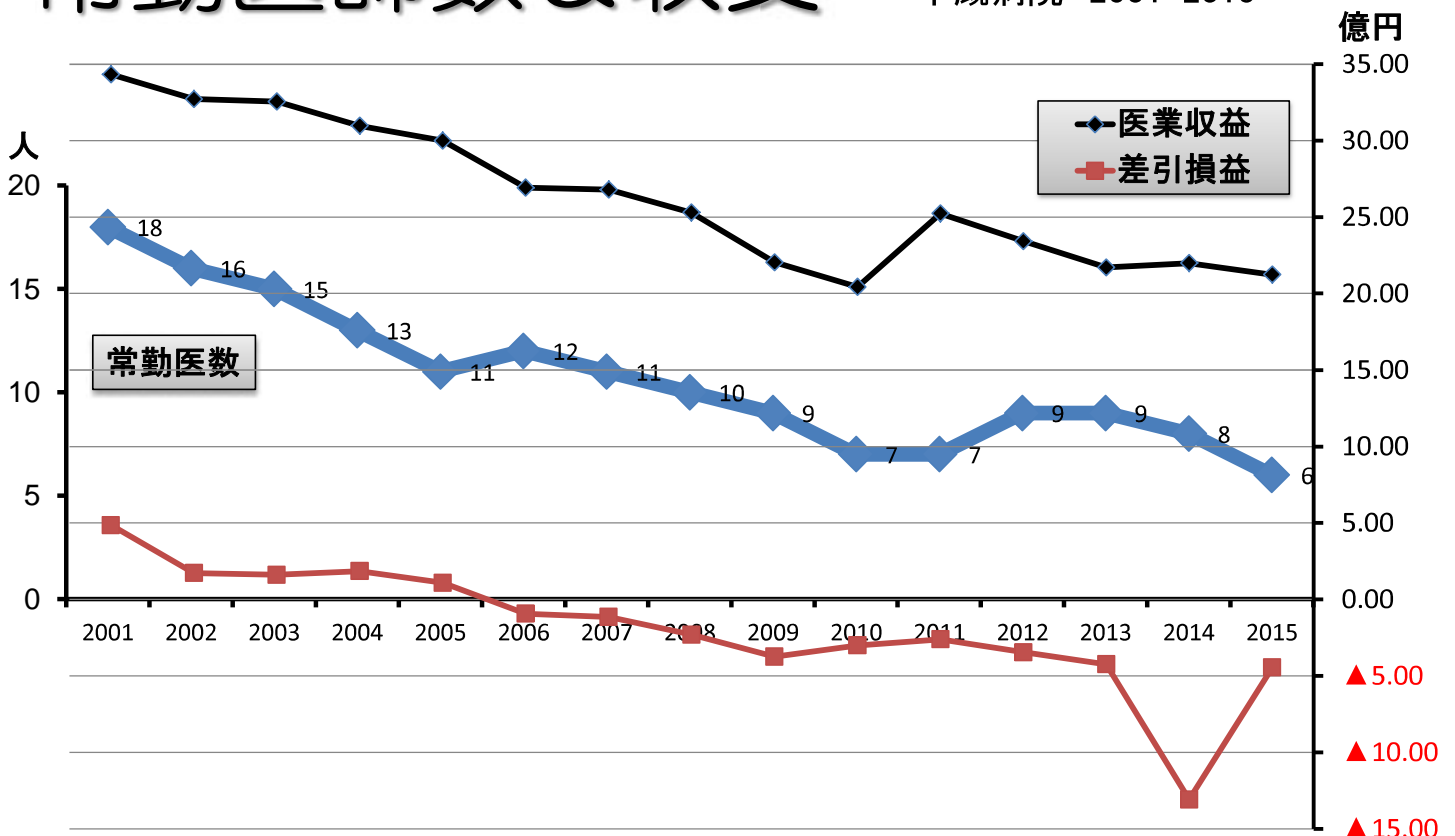


透析患者数 (2015年度累計)



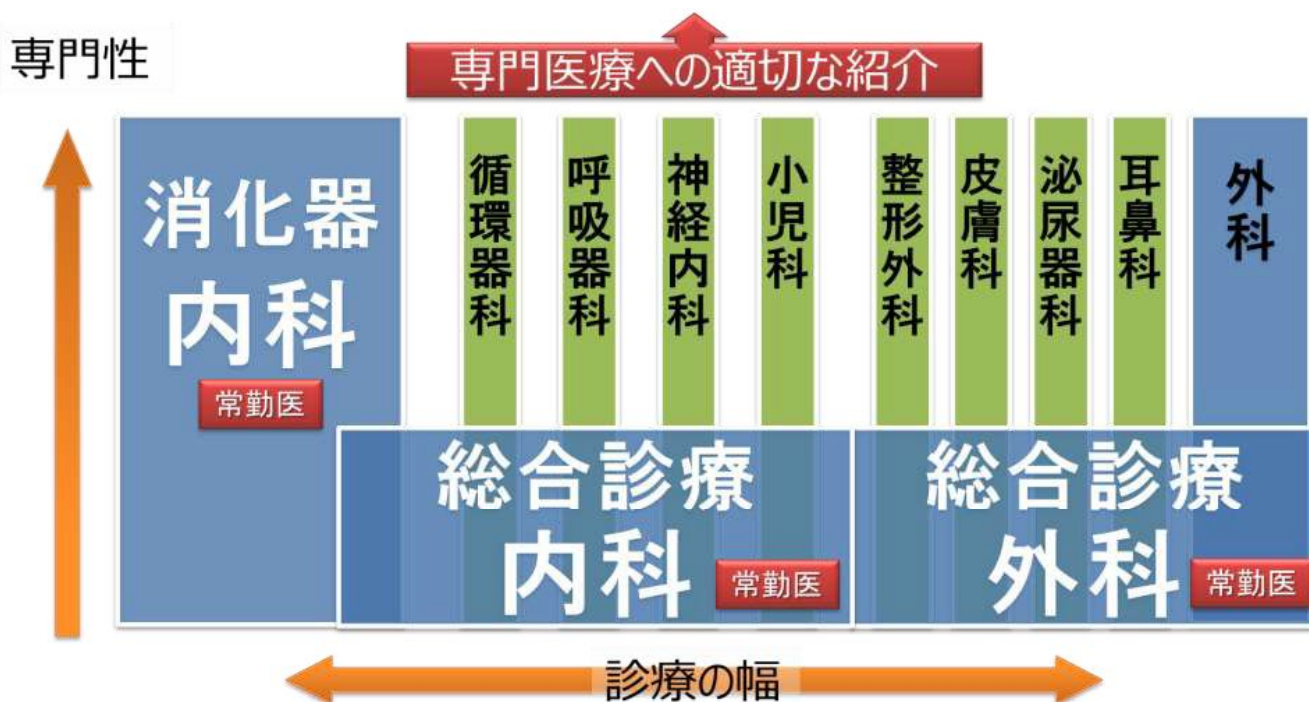
常勤医師数&収支

千厩病院 2001-2015



総合診療で支える地域の医療

-県立千厩病院 常勤医5名-



千厩病院の役割

—地域に密着した病院—

- 一般的な検査や手術は千厩病院を利用
- 総合診療, 救急診療(広い守備範囲) ⇒
⇒入院医療が必要な場合の受け皿 (サブアキュート)
- 専門医外来の診療も受けられる
- 対応できない場合, 高度医療機関へ紹介
- 後方病院, リハビリ病院としての役割 (ポストアキュート)



回復期リハビリ病棟

- 2013年度40床→2015年度45床→2016年10月より**35床**へ
- 運動器，脳血管疾患の急性期治療後のリハビリテーション
- 紹介元は県立磐井病院48%，気仙沼市立病院31% 他
- 2015年度紹介患者 137名

	千厩	全国
1日平均単位数	3.0	6.1
FIM利得（点）	20.1	18.2
FIM効率（点）	0.37	0.40
在宅復帰率	81.80%	

2015年度実績



地域包括ケア病棟の利点

- 肺炎や尿路感染，脱水症などの病名で早期退院が求められる患者さんに対して**在宅復帰の準備**
- 狭義の医療，リハビリスタッフによるリハ，看護師によるPOC，薬剤調整など**多職種が関わり**在宅復帰を目指す
- 退院支援スタッフ，MSW他が**在宅復帰を目標**に支援
- 医療と介護・CMの**連携拠点**としての役割

最長入院日数60日

リハビリスタッフ 増員は必須事項！

- 地域包括ケア病棟の安定的運用
- 選ばれる回復期リハビリ病棟へ
- 疾患別リハビリの上位基準
- 在宅復帰率向上の鍵→地域包括ケア
- 在宅リハビリサービスも

病床ダウンサイジング 2016年10月より

平均入院患者数

	平均
2013年度	111.1
2014年度	126.4
2015年度	113.2

161床



148床

2016年6-8月 Max入院数

5F	36
4F	60
3F	53
計	149

2016年度入院数概算

一日平均	118.1
利用率(161)	73.3%
利用率(148)	79.8%

5階 45床→35床

回復期リハ病棟

4階 60床→60床

総合内科 33床

地域包括ケア 27床

3階 56床→53床

消化器内科, 整形, 総合外科

さらなる 地域連携



医療と介護の連携会議 隔月

地域医療懇談会 年2回



地域医療構想時代に果たすべき

県立千厩病院の使命

- 東磐井地域の医療の灯を守る
地域救急，透析，高齢者医療
- 求められる機能分化に対応
回復期リハビリ病棟，地域包括ケア病床
- 地域包括ケアシステムでの役割
地域連携強化

急性期と回復期のハイブリッド